

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION

歯科衛生だより

発行人/吉田 直美
 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
<https://www.jdha.or.jp/>

2024 December vol.84

日本歯科衛生学会 第19回学術大会 ライフコースを通じた健口文化の醸成

主催：日本歯科衛生学会／公益社団法人 日本歯科衛生士会
 共催：一般社団法人 新潟県歯科衛生士会
 後援：新潟県／新潟市／一般社団法人 新潟県歯科医師会／一般社団法人 新潟市歯科医師会

標記タイトルをメインテーマに「日本歯科衛生学会 第19回学術大会」が、2024年9月21日(土)～9月23日(月・休)の3日間にわたり、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催されました。会場参加者は1,411名、企業展示32社が参集され、研鑽し、交流を深める場となりました。

新しいプログラムとして、第1回専門領域別・研究集会が開催され「歯科衛生士の活動を学術へー各専門領域の現在地を確かめるー」をテーマに、3分野から各2題の発表がありました。

会員より口演41題とポスター97題の発表、特別講演、教育講演、シンポジウム、県民フォーラムなど多くのプログラムがありました。後日、オンデマンド配信もあり、会員が全国から参加可能となりました。詳細や画像については、日本歯科衛生学会ウェブサイトをご覧ください(2024年9月20日にリニューアルいたしました)。



また、学術大会期間内に、「全国病院歯科衛生士連絡協議会」、地域歯科保健に従事する歯科衛生士を対象とした「フッ化物洗口取組事例報告会」が開催されました。



県民フォーラム 新潟清酒の魅力と酒造り

新潟県では「にいがた健口文化」の醸成を目指し、食べることは生きることのローガンのもと、県民の健康意識の向上を育んできました。

第6回学術大会を新潟で開催した際のテーマは「健口文化の創造」でしたが、第19回学術大会では前回のテーマを継承し「健口文化の醸成」といたしました。テーマの一部である「醸成」は、新潟県が誇る酒造りの文化に共通していることから、県民フォーラムでは新潟県酒造組合 需要振興委員長齋藤 俊太郎氏より「新潟清酒の魅力と酒造り」という内容でご講演いただきました。

新潟県の酒造りの特徴として、高い山々から流れる雪解け水を広大な水田地帯にくまなく運び、米どころとして栄えたことがあげられます。豊富で良質な水と原料となるお米の調達が可能であったことから、県内には満遍なく酒蔵が点在し、それぞれで特色のある酒造りが行われてきた歴史があります。

酒造りにおける技術面では、日本酒を専門に研究・指導する醸造試験場の存在が新潟県の特徴です。各酒蔵の杜氏たちが歴代培ってきた技術を科学的に解析し、データ化することで醸造技術を確立するとともに、次世代の人材を育成するために新潟清酒学校を創設しました。

新潟県酒造組合主催の「にいがた酒の陣」は、20年間継続されている一大イベントで県内の酒蔵の9割以上が一堂に出店し、全国から日本酒愛好家が集まります。近年の客層の半数は女性で、20代から30代の増加が顕著である点に興味を持ちました。日本酒愛好家と直にふれ合う「にいがた酒の陣」の存在が、酒造りに対する蔵元さんたちの情熱をかきたてる一助になっていることがわかりました。

新潟で古くから恒常的に行われてきた酒造りは、慣例的な営みと思っておりましたが、自然と地形の恵みの活用や、次世代への知識と技術の伝承、人材育成といった酒造りの専門家によるたゆまぬ努力と情熱のたまものであることが理解できた県民フォーラムでした。歯科専門職としてもそのような取り組みの重要性を再認識する良い機会となりました。

(一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 会長 薄波 清美)

新潟県酒造組合
 需要振興委員長
 齋藤 俊太郎氏

